

レーバーレートを計算する

レーバーレートとは、指数対応単価と同じく1時間当たりの工賃単価を指す言葉だが、似て非なるものである。指数対応単価は、損保会社との見積り協定時に用いるいわば実売価格であり、一方、レーバーレートは、工場総原価を総作業時間で割り、これに利益を足す工場の希望小売価格だと言い換えられる。

また、レーバーレートには2つの意味があり、工場の運営に必要なあらゆるコストを補うために不可欠な最低限の単価である「損益レーバーレート」と、その損益レーバーレートに利益を足した「売価レーバーレート」が存在する。先述した工場の希望小売価格とは、後者を指す。

レーバーレートを算出する目的は、会社の“今”を知ることにある。特に、損益分岐点となる損益レーバーレートの算出は、経営を成り立たせるために必要な単価を明確に示す。

またレーバーレートには、算出に必要となる原価、作業時間、稼働率の変動によって増減し、原価が増える・作業時間が減る・稼働率が下がると高くなり、対して原価が減る・作業時間が増える・稼働率が上がる場合には安くなる性質がある（図1）。

算出したレーバーレートは、決して高ければ良いというわけではない。原価、作業時間、稼働率のどこかに単価を押し上げている要因が潜んでおり、それを分析、改善し、適正な単価を求める必要がある。そこで初めて、損保会社と指数対応単価の交渉の席に着く

図1：レーバーレートの性質



ことができる。

以降に、架空の損益計算書を用いて、損益レーバーレートの算出方法を紹介します。ぜひ一度、決算書類から損益レーバーレートを弾き出し、会社の“今”を把握してほしい。

労働環境の把握

まず工場を運営するに当たり、何人でどれだけの日数、時間を掛けて作業したかを数値化することから始める。

総稼働日数 260日

直接作業員1人当たりの出勤日数、つまり工場が稼働していた日数を算出する。

平均就業時間 8時間

1日の所定労働時間から休憩時間を

引き、平均残業時間を加算する。

直接作業員数 4人

現場で直接売り上げにつながる钣金塗装作業を担う従業員数。他部門との兼任者がいる場合は、その比率を計算して加算する。

総労働時間 8,320時間

総稼働日数×平均就業時間×直接作業員数で算出する。

指数対応単価 6,500円

粗利率を算出するのに用いる。複数の単価を使用している場合は、最も使用頻度が高い単価、または平均値を算出する。

労働環境	
総稼働日数 (日)	260
平均就業時間 (時間)	8
直接作業者数 (人)	4
総労働時間 (時間)	8,320
指数対応単価 (円)	6,500

売上高・仕入高 (円)		
売上高	鋳金塗装売上高	47,000,000
	整備売上高	15,000,000
	外注売上高	7,000,000
	車両販売売上高	5,000,000
	車検 / 点検整備売上高	1,000,000
	その他売上高	
総売上高		75,000,000
仕入高	鋳金塗装部品仕入高	15,000,000
	鋳金塗装材料仕入高	5,000,000
	整備仕入高	5,000,000
	外注部品仕入高	3,000,000
	外注仕入高	3,000,000
	車両販売仕入高	4,000,000
	その他仕入高	
	期首棚卸高 - 期末棚卸高	
総仕入高		35,000,000
部品粗利率		10%

粗利	2,000,000
----	-----------

一般管理費 (円)				
一般管理費		会社全体	割合	鋳金塗装部門のみ
人件費	役員報酬	8,000,000	50%	4,000,000
	給与手当	10,000,000	50%	5,000,000
	賞与	2,000,000	50%	1,000,000
	法定福利費	2,000,000	50%	1,000,000
	福利厚生費	1,000,000	50%	500,000
	採用教育費	0		0
	通勤交通費	1,000,000	50%	500,000
	その他	0		0
営業費	広告宣伝費	1,000,000	20%	200,000
	旅費交通費	500,000	0%	0
	車両費	1,000,000	0%	0
	接待交際費	1,000,000	0%	0
	その他	0		0
維持費	地代家賃	3,000,000	80%	2,400,000
	水道光熱費	800,000	80%	640,000
	通信費	450,000	80%	360,000
	リース料	500,000	80%	400,000
	修繕費	100,000	80%	80,000
	その他	0		0
その他経費	減価償却費	2,000,000	80%	1,600,000
	消耗品費	850,000	80%	680,000
	事務用品費	200,000	0%	0
	支払手数料	0		0
	運搬費	0		0
	公租公課	1,000,000	0%	0
	諸会費	300,000	0%	0
	保険料	1,000,000	30%	300,000
	雑費	300,000	60%	180,000
	総一般管理費	38,000,000		18,840,000

工賃稼働率の算出

次に、売上高と仕入高を用いて工賃稼働率を算出する。ここでの稼働率とは、工賃売り上げを計上するためにどれだけ稼働しているかを指す。そのため、純粋に工賃売り上げのみを抽出し、仕入高も工賃売り上げにかかわる原価のみを用いて算出するのが理想だが、せめて鋳金塗装部門のみの売上高、仕入高が把握できる状態が望ましい。

鋳金塗装売り上げ 47,000,000円

鋳金塗装売上高のみを抽出する。

鋳金塗装仕入原価 20,000,000円

仕入高のうち、鋳金塗装部品仕入高と鋳金塗装材料仕入高を合算する。

(鋳金塗装売り上げ - 鋳金塗装仕入原価) × (100 - 部品粗利率) % = 工賃粗利 24,300,000円

鋳金塗装売り上げから鋳金塗装仕入原価を引き、工賃売り上げを算出する。しかし、これには部品売り上げの粗利が含まれているため、部品粗利率

を推定し、それを差し引くことで工賃粗利を算出する。

工賃粗利 ÷ 総労働時間 = 1時間当たりの工賃粗利 2,921円 (少数点以下、四捨五入)

工賃粗利が出れば、総労働時間で割り、1時間当たりの工賃粗利を算出する。

1時間当たりの工賃粗利 ÷ 指数対応単価 = 工賃稼働率 44.93% (少数点3位以下、四捨五入)

工場の生産性が100%であれば、実売価格である指数対応単価と工賃粗利は同じになる。その考え方を基に、1時間当たりの工賃粗利を指数対応単価で割ることによって工賃稼働率が算出される。

損益レバーレートの算出

労働環境と工賃稼働率が分かれば、会社全体の一般管理費を用いて損益レバーレートが算出できる。ポイントは、工賃粗利だけで補わなければならない損益分岐点を求めた後、売り上げにつながる実際の作業時間で割ることである。

総売上高－総仕入高－工賃粗利＝
工賃以外の粗利 15,700,000円

総一般管理費－工賃以外の粗利＝
工賃売上費用 22,300,000円

工場において利益を出すのは工賃粗利だけではない。そのため、まず工賃以外の粗利を算出する必要がある。それが求められれば、総一般管理費から工賃以外の粗利を引くことで、工賃だけで利益を上げる最低限の工賃売上費用が算出できる。

総労働時間×工賃稼働率＝総直接
作業時間 3,738時間（小数点以下、
四捨五入）

直接売り上げにつながる作業をした時間、総直接作業時間を求めるため、総労働時間に先ほど算出した工賃稼働率を掛ける。

工賃売上費用÷総直接作業時間＝
損益レバーレート 5,965円（小
数点以下、四捨五入）

最後に、工賃売上費用を総直接作業時間で割ることによって、钣金塗装の売り上げだけで会社全体の経営を立ち行かせるために不可欠な損益レバーレートが算出できる。

利益の分析

損益レバーレートが求められれば、指数対応単価と比較することで会社全体の利益分析が可能となる。

指数対応単価÷損益レバーレ
ート＝利益率 8.97%（小数点3位以
下、四捨五入）

架空の損益計算書を用いて算出した損益レバーレートでは、利益が充分に出ており、健全な経営状態と言える。粗利も200万円計上されていることから、設備投資により現場の作業効率を上げ、稼働率を改善してさらに利益を出しやすい体制にするのも良いだろう。

仮に、算出した損益レバーレートが指数対応単価を上回った時には、早急に改善策を検討しなければならない。損益レバーレートを下げるには、原価（仕入れ）を減らす、または稼働率を上げる必要がある、一般管理費に高すぎる項目はないか、また現場は効率良く作業できているかを見直す。それでも上回る場合は、指数対応単価が安い可能性があるので損保会社と交渉をすべきだろう。

以上が、損益レバーレートの算出方法だが、冒頭で触れたように、あくまでも算出した数字は“今”の単価であることを忘れてはならない。なぜならば、この先ずっと売上高や仕入高、一般管理費、さらには人員の数や構成など算出に用いる数字がまったく同じとは限らず、その時世の景気や社会情勢、業界動向、会社が目指す方向性によって常に変動するからだ。そのため、少なくとも年に1回は損益レバーレートを算出し、会社の“今”を把握することをおすすめしたい。

参考

今回は、钣金塗装の工賃粗利だけで会社全体の総原価を補うために必要な単価を求めたが、钣金塗装部門にかかわる一般管理費だけを直接作業時間で割り、钣金塗装部門だけの損益レバーレートを算出する方法もある。ただし、一般管理費は钣金塗装部門のみを抽出するために売り上げ比率などから共通配賦率を設定し費用を割り出すなど、日ごろから钣金塗装部門の項目を小まめに管理、記録を付けておく必要がある。

钣金塗装部門のみの総一般管理費÷
総直接作業時間＝損益レバーレ
ート（钣金塗装部門） 5,040円

また稼働率においても、算出方法で紹介した損益計算書から導いた工賃稼働率と、実際の作業現場における稼働率とは異なる。より正確な現場レベルでの稼働率を算出するには、钣金塗装作業に当たった直接作業時間から休憩時間を除いた実働時間で割ること求められる。直接作業時間を割り出すには、業務日報などで直接作業者が1日のうちにどれだけの時間、どのような作業をしたか記録を付け、管理する必要がある。

直接作業時間÷実働時間×100＝稼
働率（%）